

単為結果性ナス新品種「あのみり2号」 —栽培の省力化が可能・「あのみり」よりも多収—

ポイント

- ・単為結果性¹⁾（着果促進処理が不要）をもつナス新品種を育成
- ・果形等の果実外観が良く、「あのみり」²⁾よりも多収性

農研機構は、着果促進処理が不要なために省力栽培が可能で、収量性の高いナス新品種「あのみり2号」を育成しました。



「あのみり2号」は、強い単為結果性（受精しなくても果実が着果・肥大する性質）をもつため、訪花昆虫³⁾による授粉や果実肥大を促進させる植物ホルモン剤施用等の着果促進処理が不要で、ナス栽培を省力化することができます。また、同じく単為結果性をもつナス品種「あのみり」（2006年農研機構育成）よりも多収で、さらに冬季の栽培においても果形が細長く変化することが少なく、安定的に生産できます。

予 算：農林水産省委託プロジェクト「低コストで質の良い加工・業務用農産物の安定供給技術の開発」（2006～2010年度）・運営費交付金
品種登録：出願番号 第29067号（平成26年8月28日品種登録出願公表）

問い合わせ先

研究推進責任者：農研機構野菜茶業研究所 所長 小島 昭夫

研究担当者：同 野菜育種・ゲノム研究領域 上席研究員 齊藤 猛雄

TEL 050-3533-4612

広報担当者：同 企画管理部 情報広報課長 鈴木 康夫

TEL 050-3533-3861 FAX 059-268-3124

プレス用 e-mail：www-vegetea@naro.affrc.go.jp

本資料は、農政クラブ、農林記者会、農業技術クラブ、筑波研究学園都市記者会、三重県政記者クラブ、愛知県政記者クラブに配付しています。

※農研機構(のうけんきこう)は、独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構のコミュニケーションネーム(通称)です。新聞、TV等の報道でも当機構の名称としては「農研機構」のご使用をお願い申し上げます。

「あのみり2号」育成の背景と経緯

最低気温がおよそ 15℃未満の低温期や寒冷地におけるナス栽培では、着果や果実の肥大を安定化するためにミツバチ等の訪花昆虫の利用や、植物ホルモン剤の処理をしています。しかしながら、植物ホルモン剤の処理に要する労力は栽培に要する全労働時間の約 2～3 割を占める煩雑な作業であり、また、訪花昆虫を利用する場合、受精能力のある花粉形成のためには最低温度を 17℃程度以上とすることが条件となります。さらに、訪花昆虫の利用に当たっては種々の制約があり、例えば、広く使われるセイヨウオオマルハナバチの場合、外来生物法に従い、飛散防止用ネットの使用や使用済み巣箱の完全殺虫処理等が必要となります。これらの問題を根本的に解決するには、受粉作業が不要となる単為結果性を有したナスの開発が有効です。

単為結果性ナスについては、2006 年に「あのみり」を発表し、日本国内での推定栽培面積は 41ha (2013 年) となっています。しかし、一般的な市販品種よりも収量性がやや劣ること、低温期に果形が細長くなりやすいこと等が指摘され、それらの改良が求められていました。そこで、「あのみり2号」を育成しました。

「あのみり2号」の特徴

1. 「あのみり2号」は「あのみり」と同等以上の強い単為結果性をもつため、低温期の促成栽培⁴⁾においても正常果の割合が高く(表1)、着果処理のための植物ホルモン剤や訪花昆虫の購入費、訪花昆虫の活動に必要なより高い温度維持のための暖房費等の生産コストを削減できます。
2. 「あのみり2号」は、「あのみり」よりも側枝が出やすいため、1株当たりの商品果数が多く、多収です(表2)。また、着果促進処理作業が不要なため、省力的な栽培が可能となり、無処理条件下では、「千両二号」よりも、多くの商品果を確保できます(表2)。生産性は普通露地栽培では「あのみり」と同等ですが、促成栽培では「あのみり2号」が優れています(表2)。
3. 「あのみり2号」の果実は長卵形でよく整います(表2、図1左)。また、単為結果性をもつため、ビニールハウス等で訪花昆虫を利用しない条件で栽培することにより、受粉によって生じる種子の形成もなく、種なしのきれいな断面の果実が生産できます(図1右)。

表1 「あのみり2号」の単為結果性

品種名	試験年度	開花数に対する割合 (%)		
		正常果	石ナス果 ⁵⁾	落花
あのみり2号	2010	100.0	0.0	0.0
	2011	91.5	1.5	7.0
あのみり	2010	90.9	2.1	7.0
	2011	64.5	4.7	30.8
千両二号	2010	0.0	78.2	21.8
	2011	0.0	25.6	74.4

2010および2011年度は促成作型、それぞれ10/4～11/12および11/25～1/8に開花した花について着果・肥大性を調査。いずれの品種も着果促進処理なし。

表2 「あのみり2号」の諸特性

作型	試験年度	品種名	着果促進処理	商品果数(本/株)	1果重(g)	果長(mm)	果径(mm)	果長/果径	果形
促成	2011	あのみり2号	無	97	137	164	53	3.11	長卵
		あのみり	無	86	113	164	47	3.52	中長
		千両二号	有	142	115	160	50	3.20	長卵
	2012	あのみり2号	無	120	—	—	—	—	長卵
		あのみり	無	113	—	—	—	—	中長
		千両二号	無	45	—	—	—	—	長卵
			有	147	—	—	—	—	長卵
露地普通	2012	あのみり2号	無	55	133	142	54	2.62	長卵
		あのみり	無	51	153	158	55	2.88	長卵
		千両二号	無	63	107	146	49	2.99	長卵
	2013	あのみり2号	無	66	163	153	57	2.68	長卵
		あのみり	無	61	159	163	54	3.03	長卵
		千両二号	無	74	127	150	52	2.91	長卵

ナスの場合、促成作型（9月下旬に定植・翌6月末まで収穫）は栽培期間の大部分が低温期であり、露地普通作型（5月中旬に定植・10月末まで収穫）は栽培期間の大部分が高温期である。なお、表1の試験と表2の試験は独立して実施した。



図1 「あのみり2号」の果実

「あのみり2号」の普及先等

「あのみり2号」は、先行して発表した単為結果性品種「あのみり」と同様、全国の種々の作型で栽培可能です。「あのみり」に比較し、より多収性を求める生産者の方々にぜひ試して頂きたい品種です。

種子の配布と取り扱い

「あのみり2号」は、今後、農研機構と利用許諾契約を締結した民間種苗会社等から種子が販売される予定ですが、販売が開始されるまでの間、農研機構野菜茶業研究所と「原種苗提供契約」を締結のうえ、有償にて種子を提供させていただきます。

利用許諾契約に関するお問い合わせ

農研機構 連携普及部 知財・連携調整課 種苗係

TEL 029-838-7390 FAX 029-838-8905

原種苗提供契約に関するお問い合わせ

農研機構 野菜茶業研究所 企画管理部 企画チーム

TEL 050-3533-3810

用語の解説

1) 単為結果性

通常の植物では、風等による振動や訪花昆虫等によって柱頭（めしべ）に花粉が受粉して受精し種子ができることによって果実が肥大します。この受粉や受精せず種子ができなくても、正常に果実が着果・肥大する性質を単為結果性といいます。

2) あのみのみり

農研機構 野菜茶業研究所が 2006 年に育成した単為結果性ナス品種。

3) 訪花昆虫

植物の花にはいろいろな昆虫が訪れます。その昆虫のこと。花粉を柱頭（めしべ）に授粉させるという重要な働きがあります。ナスでは、ミツバチやマルハナバチ類が栽培技術のひとつとして利用されています。

4) 促成栽培

施設を使うことなく露地で自然条件下で栽培する普通栽培に比べ、より早期に収穫しようとする栽培を促成栽培という。ビニールハウスや温室等の施設を利用し、保温あるいは加温して栽培する。ナスでは、地域によって異なるが、およそ 8～9 月に定植し、翌年の 6～7 月まで収穫する場合が多い。

5) 石ナス果

着果したものの正常に大きくなりず小さいままで硬いナス果実のこと。食味に劣ることから食用に適さず、出荷できません。